

第４回セントラルパーク基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：平成３０年１１月１９日（月）１４時００分～１７時００分

会 場：アクア博多３階 Ａ会議室

議事概要：

発言者	発言要旨
事務局	<開会、挨拶等>
事務局	<議事（１）>基第１回～第３回委員会の検討と法律改正（資料１）について説明
委員	意見なし
事務局	<議事（２）>基本計画の進め方（資料２）について説明
委員	意見なし
事務局	<議事（３）>第３回検討委員会の意見と対応（資料３）について説明
委員	意見なし
事務局]	<議事（４）>基本計画（案）（資料４－１、４－２）について説明
委員	基本計画について、最終的に第一部と第二部はどのようにまとめるのか。これまでの公園計画では空間をデザインし、運営管理を考え、利活用していたが、これからは利活用を先に想定し、運営管理や空間デザインに移っていくということであれば、どのようにまとめる予定であるのか。
事務局	第一部は本編として要点が整理し、第二部は第一部のバックデータの的なものとして構成している。
委員	第二部に第Ⅲ章維持管理計画があるが、この要点を第一部に出てきていない。
事務局	第一部に維持管理計画の考え方が落ちているので、次回は第一部に入れ込んだ形で記載していきたい。
委員	是非、この資料１の骨組みに沿って構成して下さい。利活用を想定すると、維持管理において利用者による負担や税金による負担、施設整備における民間活力の導入などの想定が見えてくる。それをきちんと整理をしたほうが良い。

委員	資料１の「再編集の考え方」であるが、これまでの考え方は、空間デザイン、管理運営、利活用の順になっているが、これからの考え方は利活用から運営管理、空間デザインとなっており、利活用のために空間デザインをするように見える。
事務局	これまでの考え方では、施設をつくることを重視し、施設整備後に管理、利活用という構成で編集していた。今回、まずは、利活用を考え、そのための管理運営、施設整備という構成を行った。それを常にフィードバックしながら、公園運営を行う計画に見直したことを模式的に表現している。
委員	それを理解しやすいように、この模式図は工夫したほうが良い。
委員	正確には「空間デザイン」は、既に公園があることから、「空間の再デザイン」である。それを、利活用を意識し、再デザインする必要があること。そこが伝わるようにする必要がある。
委員	第一部はソフトが記載されており、第二部はハードが記載されている。第一部を見れば一応全部わかり、第二部はそれのバックデータというなら理解できる。大事なハードは第一部にも記載する必要があるのではないか。
事務局	今回は、第一部を見れば全てわかるという構成になっていないところもあることから、次回までには修正する。
委員	２年振りの委員会開催であるが、私はこの２年間は無駄ではなかったと思う。この２年間にやってきた賑わいづくりなどの試行錯誤の知見が今回フィードバックされているのはとても良いことである。 今までは、ここは歴史公園であることから、復元と保存を前面に出していたが、これからは活用と整備という方向になった。また、建前で物事を考えるのではなく、現実的にやるという方向にシフトしており、良いことと思う。 セントラルパーク構想は、両公園は主管や法律が異なる中、一体的に活用していく方向でスタートしたが、今や福岡市もこの２～３年で、大きく発展している。例えば、天神ビッグバンや六本松も再開発が進んでいる。ニューヨークのセントラルパークはマンハッタンのオアシスであり、舞鶴・太濠公園を高層化する天神ビッグバンと六本松のオアシスにするというふうに、現在の都市開発シナリオとドッキングしたほうがよい。
委員	天神ビッグバンと六本松に加えて、ウォーターフロント開発がある。現在、クルーズ船が入港した時に、観光バスで舞鶴公園に来ている。また、日本全体の観光客にどう活用して頂くかという視点も大事であり、海外との関係も大事である。

事務局

駐車場は非常に重要だと思うが、将来を展望し、大型バス・乗用車の駐車場をどう考えているのか。

ウォーターフロントとの関連については、第一部の51ページにおいて、「周辺地域の整備の方向性」を一つの図にして記しており、博多、中央埠頭との関連をしめている。また、39ページにおいて、公共交通を利用したときの移動時間等について示しております。

駐車場については、第二部の132ページに、駐車場の基本的な配置方針を示している。現在の利用状況や、周辺の民間駐車場の動向も見据えながらの検討になるが、現在、一般乗用車が513台、大型バスが21台あり、今後の計画台数は、乗用車500台、大型バス30台で検討している。配置については、公園利用者との輻輳などを踏まえ再配置をする計画である。

また、クルーズ船による観光バスの対応については、大濠・舞鶴公園だけで対応するとは考えておらず、全市的な観点から対応すべき課題と考えている。

委員

舞鶴中学校跡地の駐車場の継続性や大型バス駐車場が30台分で足りるのが気になる。

委員

今回、利活用に少し重点を置いて考えるということであるが、利活用というのは使ってもらい必要があるで、情報の収集の仕方少し変わってくる。

例えば、第一部の14ページに示してあるモデル「アジアを代表する観光地」では、多くの方々が果たして来てくれるのか、どうすれば来てくれるのか、我々以外の専門家にもヒアリングをする必要がある。関東、関西、海外にも立派な公園がたくさんある。ハードでは恐らく勝負できない中、どこで勝負すればいいのかを、ヒアリングする必要がある。

例えば、ハード以外で勝負しようとする場合、きめ細かな配慮がされていることから、メディアにとって使いやすいといったこともあると思う。そういった視点で少しメディアや広告代理店、旅行客など、いろいろな細かなヒアリングを行い、検討した方が良い。そうしないと、受け皿はあるが、実際には使用しないということが起きることがある。そのあたりをしっかりとやっていただきたい。

また、大濠公園について、犬などのペットを連れてこられる方があまり記載されていない。そういうニーズにきちんと対応できているのか。

それから、自転車と歩行者との錯綜や駐輪の問題などがある。第二部の134ページに「実際には駐輪場でない場所に駐輪が目立ちます」と課題が記載されているが、どう解決していくのか。

公園内の駐輪場は、地下鉄の駐輪場との関係もあり、無料は考えられない。ただし、例えば、有料であるが、3時間は無料にするなど、通常の一般の公園利用者であれば問題なく、通勤などで使う人を抑えるといった工夫が必要である。走行する場所についても、最近、安全性の面が非常に言われていることから、しっかりと考えていく必要がある。

委員

大濠公園のことが出たが、犬、猫の問題は大きい。また、大濠公園は自転車とジョギング・ウォーキング、散歩道の3つの園路に分かれており、自転車とランニング・ウォーキングの錯綜が多い。今回、舞鶴公園と一体化した識別にすることは良いが、ジョギングコース等を一体化する場合には、識別、例えば標識の問題もあると考えている。

それから、駐輪場について、大濠公園は入り口が多く、そこに駐輪をしており、特に問題なのは荒戸1丁目のバス停や地下鉄駅である。荒戸1丁目のバス停の駐輪場は閑散としており、大濠公園のほうは満車である。その理由は、近隣一帯の駐輪場は100円、大濠公園は無料だからである。何か解決できないかと思っている。

また、大濠公園の駐車場については、通常、土・日・休日は満車であるが、平日は満車ではない。それから、観光客は大濠公園にあまり長時間滞在しない。大濠公園を周回せず、むしろ福岡城や鴻臚館跡などを見学しているのではないかと推察している。

委員長

ここで、本日欠席の委員から事前に意見を頂いているので、事務局から読み上げをお願いします。

事務局

欠席の委員から事前に頂いた意見は、

- ・セントラルパーク自体、文化発信拠点としてもっとはっきりした性格づけを行った方が良いのではないかな。
 - ・福岡の心のよりどころとなるような、文化を象徴する何か拠点がさらにあれば良い。
 - ・歴史的な背景もある古代の迎賓館「鴻臚館」の見える化も大事である。現代的翻訳と機能を持つ再現でも良いと思う。
 - ・福岡市には重要な観光装置が少ない中、セントラルパークは、重要な文化拠点形成エリアになり得る。
 - ・陸上競技場は、明治神宮の中に新国立競技場があるように、外観を文化的な処理を施すことなども考えられる。
 - ・サウンドサイネージ、ホログラム、マッピング等、先端技術とコラボし、物語を持ったようなアートワーク等を配置することで、回遊性を持たせるのも重要である。「セントラルパークアートプロジェクト」などコンテンツを発信する事業を定期的にやってみるのも良い。
 - ・今後とも県と市が共に取り組んでいる姿をポジティブに発信することが重要。
-
- ・鴻臚館跡整備基本計画については、これまでの成果を取りまとめる必要があり、それらを踏まえ今後の整備を検討する必要がある。
 - ・今後の高等裁判所跡地の調査において、鴻臚館の遺跡の発掘状況により、今回示されている平面計画に影響する可能性がある。全体平面図については高等裁

判所跡地の発掘調査の結果により変更する可能性がある旨を明記するなど、柔軟な対応が必要である。

- ・ 古代、近世、近代と時代が異なる三つの歴史が存在する重層性については、同じ箇所でも重層性を感じる復元は、現実的に難しく、利用者が混乱するのではないか
- ・ 第3回委員会以降の都市公園や文化財をめぐる政策の転換は芸術活動に関連する文化政策の動きとも重なり、これをふまえて計画の構成を修正されたことは理解できました。
- ・ 特に芸術文化エリアに関連する記述については、第3回委員会まで述べさせていただいた意見の趣旨に沿って修正されていると受け止めています。
- ・ 繰り返しになりますが、既存の日本庭園、福岡市美術館、能楽堂を地図上でつないただけでは「芸術文化エリア」とは言い難く、さらなる文化施設の集積が望まれます。また、少なくともエリア内のパブリックアート設置等は、全体との景観との整合性をはかりながら検討されるべきかと思います。
- ・ 加えて、ファニチャー類も芸術性のあるものが望ましく、他のエリアにもそのエリアにふさわしいデザインのファニチャーが設置されるよう期待します。
- ・ また、別の角度からの意見ですが、委員会の委員構成は以前から男性が大半であり、視点に偏りが生じる可能性があることに懸念を感じています。セントラルパークが社会のなかの多数派とはいえない人々にとっても居心地の良い場所になることが、福岡のまち全体の将来にとって重要であると考えますので、多様な考え方が取り入れられた計画となるよう望みます。

以上である。

委員

今回、建前論から現実論にシフトしようというのは大変すばらしい。例えば、城内道路は、前回までは、15年先の構想画には無くなっていたが、今回は残している。城内道路は幹線道路であることから、30～50年はなくなることは考えられない。

まずは、舞鶴公園は電線の地中化をすべきである。要するに40センチ以上掘ってはいけないのではなく、きちんと発掘調査して戻せば良い。建物は建てられないというだけでなく、現実的に整理して言うべきだと思う。

また、大都市のオアシス化やシンボライズされたランドマークの2つの視点で何をやらなければならないかである。

史跡の復元などは膨大な予算と時間がかかることから、それに代わるシンボライズを考えるべきだと思う。

潮見櫓等の小規模な復元はできるが、大規模な復元は期待してもすぐには難しい。実は、私も復元図を32枚つくりました。石垣しかなくてもそこにあった①建物と②人と③生活など往時の様子を描いて絵で復元した。これは、ヨーロッパのEnglish Heritageなどでもやって方法で、建物復元はめったにしないが、ビジュア

ルなもので示している。そういうものを展示し、多言語の説明を行い、サインマークをつくり、コースがわかるようにしていく。

それから、オアシスについては、自然と歴史とアメニティーが重要であり、自然は緑とか花があり鳥も来る。また、歴史については石垣のままでもきれいにする必要があり、憩えるチェアやカフェ等があると良い。舞鶴公園は大濠公園に比し、公園としての基本が不十分である。

以前、舞鶴公園に欧米系外国人の日本語学校学生を3回連れていった。1回目は「ここがお城だよ」という以外は何も言わなかった。2回目は入り口で公園内の解説した。3回目はガイドと通訳つきで回った。そうしたら、最初は「全然わからない、何もない」と言っていたが、2回目は「あるじゃないの」と言う。3回目は「すごいね」と言って公園として整備の意見が沢山でた。特に、舞鶴公園はそういうことをやる必要がある。

それから、舞鶴公園を歩くと、天気がいい日は、靴やズボンの下半分が真っ白になる。雨が降るとべちょべちょになる。排水路がない。局部的な発掘調査をして排水工事や表面処理もするべきで、そういうこともやれるよう、現実に色々なことを考えていく必要がある。

委員

大濠公園においては、最大のイベントである花火大会が無くなった。花壇等は、ボランティアを募集し、約80か所つくっている。また、近所の小学校の総合学習で、ヒマワリを植えており、近所の幼稚園児が2～3日前にチューリップを植えた。

また、野鳥の森があり、西側はどんぐり公園がある。それから、中の島を散策するのも一つのオアシスだと思う。さらに、くじら公園があり、新しく代えた遊具もあり、土日は大変多くの子供たちが喜んで遊んでいる。

また、くじら公園からずっと南のほうに下る園路があり、それが国際友好の森、福岡市美術館までつながっている。夜は明かりが点いており、林の中を通る約2メートルの幅員の園路で、空気も非常にきれいで、オアシス的なところである。来年3月21日にリニューアルオープンする福岡市美術館の来館者の多くは、地下鉄やバスを使うので、エントランスから歩いて、この園路やジョギング・ウォーキング園路、自転車園路を通して来ると思う。

また、土塁の下に、水が流れており、そこに蛍を放して一つの名所にしたらどうか。そういうことで引きつけるのも一つの手ではないか。大濠公園は走ることと歩くことだけでなく、こういう所もあるというアピールをしたらどうか。舞鶴公園も菖蒲池や名島門周辺などあるが、一体化というならば、大濠公園もそういう形でしたらどうか。

また、第一部の35ページのエントランスエリアであるが、公園全体の総合利用案内を記載しているが、周辺の民間駐車場は全部電光掲示板になっている。大濠公園は看板を人力で表示している。舞鶴公園と一体化させ、見やすいものにしていくべき。

また、トイレについては、今年中に洋式化する予定であるが、くじら公園周辺にトイレがない。近傍に1号トイレがあり、くじら公園を利用している子供達のため

にもそれを移設してはどうか。

まず、多くの近隣の方々に来園していただき、そこで活動していただく。大濠公園の夜は、街灯が明るく、若い人がランニングなどをしている。朝はお年寄りが歩いている。そういう市民・県民のオアシス的な要素がある。現状を、具体的に調べ、整備を考えるべき。

委員

前は、福岡城、鴻臚館について、遺跡がどこかに行った計画になっているのではないかと危惧した。鴻臚館、福岡城、お堀を含めた歴史的な空間をセントラルパークとすると、この歴史性が非常に重要である。今回はその考え方を入れて、遺跡に配慮している。

しかし、第一部の54ページのエリア整備計画にあるとおり、舞鶴公園と大濠公園では見えているものが全く違う。大濠公園ははっきり見えて使える状態であり、南側に美術館、日本庭園があり、北側にくじら公園がある。しかし、舞鶴公園は福岡城本体のデータがない。例えば、第一部の59ページではパースが「仮」となっている。全部「仮」である。特に、68ページの城の中心部は全て「検討中」である。せっかく大濠と福岡城をつなごうとしているのに、福岡城は全く基礎データがないという状態である。福岡城はまだ、スタートラインにも立っていない。それをつないで魅力あるものにしようというのは、無理がある。

まず、福岡城の基礎的なデータを早く調べてほしい。その上で歴史公園をどう活かすか。福岡市の規模であれば、発掘調査に係る費用は大きな金額ではない。高等裁判所のほうも発掘調査がされていない。早く、集中的に調べることが大事である。そうしないと福岡城の計画は進まない。福岡市は、大濠との違いをしっかりと捉え、積極的に取り組んでいただきたい。

委員長

高等裁判所跡は発掘調査が始まる予定であり、発掘調査の結果によってこのデザインが変わるということは他の委員も、ご指摘になっている。発掘調査が終わったところは良いが、終わっていないところが課題である。

委員

本丸などは、発掘調査に着手しておらず、観光客が来ても「ここ何だろう？」と、素通りして天守台に行くだけである。魅力が埋もれてしまっている。

委員

この公園は歴史的資源が中心となっていることから、歴史公園であるという基本概念をきちんと整えることが必要である。私が最初に疑問に感じたのは、この2年間で多くのイベントをやり、利活用を中心として空間をデザインすることがメインに進んでいる。歴史公園として整備を進めるべきだ。

高松城の城跡では、小規模で天守閣はない。しかし、松がきれいで、カメラのシャッターを押したくなるような景観がある。ところが、福岡城の天守台周辺で写真を撮ろうとする人はいない。修景についても、歴史的な遺産であるということがわかるように計画すべき。イベント開催も良いが、福岡の歴史のわかるようなイベントもやっていくべき。

委員	第二部の139ページの中国語の表記について「日本語と中国語でほぼ同様の漢字を当てる場合には中国語を省略する」という表現があるが、中国語は簡体字、繁体字と2種類あり、省略は難しい。多言語表記についてはしっかりと力を入れるべきであり、これは見直す必要がある。
委員	結局、建前と本音に振り回され、復元は建前のことしか記載できない。しかし、現実にはそんな膨大なお金と時間をかけられないから、現実的には、絵、AR、VRなどの疑似の復元などをやるということを記載すべきだと思う また、全体通じて、最初のほうに、実現可能な範囲で、「わくわくする」ようなセントラルパークビジョンみたいなものを書くべき。 1つ目は、天神ビッグバンと六本松タウンに隣接する、皆が「行ってみたい」都心のオアシスとして、おしゃれなパークにするというようなもの。 2つ目は、古来アジアに開かれた国際交流都市福岡の歴史的ランドマークにするということで、高等裁判所跡地の発掘調査が終了したら、鴻臚館展示館などを含め、シンボリックなミレニアムミュージアムなどを検討することを記載すべきだと思う。 1300年前の鴻臚館跡地と400年前の福岡城跡地と現代の三つの時代が同じところに共存しているため、全てを復元できない。だから、ガラス張りのミュージアムなど、その三つの時代が共存するランドマーク的なものを検討すべき。最初に少し「わくわくする」する表現があったらいいと思う。
委員	利活用計画の意味を書くべき。それは、公園マネジメントの前提となる利活用計画である。要するに、公園マネジメント時代が来たということである。今までのように公園を整備して、あとは管理費がないから、魅力がなくなるのではなく、今回のセントラルパーク構想はマネジメントできる保証を持って公園を再デザイン（再整備）ことである。 だから、「公園マネジメントの前提となる利活用計画の検討」となるが、言葉が足りない。その後に、公園マネジメントでの前提となる「管理運営計画」や「エリア別再整備計画」、「公園施設の個別計画」などが出てくる。 当初、セントラルパークという名称は、大濠は福岡城の堀であるが、城と別々に見えているというのが良くないというのがあった。だから、セントラルパークにする。しかも、福岡のまちの中心にあって、これから地域を牽引する公園として育ってもらいたいというのもあった。それをやるならば、福岡がセントラルパークネットワークを提起する。ニューヨークのセントラルパークまで入ってくれるかどうかわからないが、日本国内の日比谷公園や名古屋の公園など、そういうセントラルパークネットワークみたいなものの牽引役に福岡になる。そうすると福岡のステータスが高められるので、夢という部分で触れたほうがいいのか。 公園マネジメントというのはキーワードなので、入れたほうがいい。次回の委員会で基本計画をまとめる必要があり、その方法についての意見である。

委員	セントラルパーク構想で、大濠公園と舞鶴公園を一体的に整備して利活用していきましょうということであるが、名称は別々なのか、あるいは、新たな一体的な名称を考えられているのか。
事務局	具体的な案はないが、計画を進めながら、その必要性について検討していきたい。現在は県、市それぞれの所管で運営しており、まずは、利活用の一体性や管理運営の一体性を高めることを進めている。
委員	いずれにしても一体の方向で検討されていくということですか。
委員長	セントラルパーク構想は、2つの公園が1つになって、福岡の顔になるという新しいイメージをつくり上げるべきだと思う。そのために、ここには文化財等の様々な要素があるので、それをいかに表現し演出していくのか。今日は、多くの委員がそういう意見を言われたと思う。事務局には、頂いたご意見をいろいろな視点から取り上げ、セントラルパークとしてふさわしい内容に仕上げていただきたい。
委員	第一部の6ページの「利活用イメージモデル」について、これは何で11だったのか。理由はあるのか。
事務局	特に理由はない。
委員	その理由は何か必要かもしれない。歴史公園を強く出したイメージがあっていいのではないか。モダンな利用イメージが多くて、伝統的なものがちょっと欠けている印象がある。
委員長	これは、最初10個ぐらいだったのが11になったりした。最初の構想も利活用計画を前提にしており、利活用を意識していたが、マネジメントになると少し違ってくと思う。
委員	私も、広い空間の中であることから、ランドマークとなるものを創ったらいいと思う。スペインの各交差点には昔の英雄の銅像があり噴水がある。大濠公園には水があるので、噴水をつくり、スポットライトを当てたらどうか。 予算の関係もあるが、いずれにしてもランドマークとなるものを検討すべき。
委員長	ランドマークの考え方も、「モノ」としてのランドマークと「コト」としてのランドマークがあり、長い歴史をベースにしたランドマークであることから、「モノ」ではなくて、「コト」なのかもしれない。「モノ」として表現するならば、例えば、土塁などで表現できるが、お城は復元が難しい。 非常に深いご意見であるので、事務局は、1つ1つのキーワードを再考察していただき、次回、示唆して頂きたい。

委員	東京や外国から友達が来た時に、福岡市民は「さあどこへ連れていこうかな」と言う。飲食の場所は多くあるが、観光で「あなたあそこ行った？」という合い言葉がない。例えば、シンガポールでは「マーライオン行った？」とか言う。福岡市民は「どこへ連れて行くかな」と迷う。それを、「ここだよ」と、「福岡城の跡」「鴻臚館の跡」「現代もいろいろなものがある」など、市民が思えるようにしたい。「連れて行くところがない」という言葉を返上したい。
委員	基本的に、2つの公園を1つとして管理運営して利用を促していく取り組み自体は、全国レベルで見ても珍しい取り組みで、それ自体、なかなか難しいが、意義があるということで、県と市が取り組んでいると思う。 計画を策定し、市民、県民の方々にこの計画を実現するにあたり、この計画ができたなら実現することを具体的に示す方が良いと思う。現計画では、11の利活用イメージモデルを挙げているが、具体的にどういうものを目指すのかを考えると、散漫な印象となっているので、端的に両公園が良くなっていくものが見えるといい。 今後、これをベースに計画の熟度を高めていくと思うが、これからは、対外的な見え方にフォーカスすると、次回はよりおもしろい委員会になると思う。
委員長	今日の意見を内容的に精査し、基本計画にふさわしい内容を次回提案していただきたい。
事務局	本日頂いた意見を踏まえて、事務局で検討を進める。 次回開催は委員長とも相談の上、日程調整させて頂く。 第4回検討委員会は以上で閉会する。

—— 以上 ——